

富士山散策路（御中道）基本構想のポイント

1. 構想策定の目的

平成 25 年 6 月に富士山が世界文化遺産に登録されたことを踏まえ、世界遺産である国立公園にふさわしい質の高い利用を提供する必要がある。富士山の利用においては、五合目付近を利用する登山者以外の軽装の日帰り利用者（以下、「観光客」と呼ぶ。）が、国内外から 400 万人程度の観光客が来訪している。しかし、諸外国の世界遺産や国立公園と比較して自然文化等の知的な情報についての提供が十分ではなく、質の高い利用の提供に課題が指摘されている。そこで、年間 400 万人の観光客が富士山の優れた景観を楽しむだけでなく知的好奇心も満たすことができるように、環境省において五合目周辺の散策路に関する利用及び整備のあり方を示すものである。

2. 富士山五合目の利用状況

山梨県及び静岡県における富士山五合目周辺の来訪者数は、年間 400 万人を超えている（スバルライン五合目（通年）400 万人（H25 年度）、静岡県側の 3 登山口（7 月～8 月）30 万人（H24 年度））と推計されており、また、富士ビジターセンターなど富士山麓を利用する外国人来訪者も増加傾向にある。五合目周辺の来訪者の多くは、日帰りでの短時間の観光利用が主となっている。

3. 構想策定に関する基本方針

上記のような利用状況を鑑み、富士山五合目を訪れる観光客を対象に、世界遺産である富士山にふさわしい質の高い利用を提供するため、富士山五合目周辺における散策路整備に関する構想を策定し、これをもとに、今後、各県・市町村・観光事業者等関係者と連携・協力を図りつつ、歩道等の整備・維持管理、自然体験プログラムの提供、利用のルール作り等を進めることとする。

さらに、世界文化遺産である富士山にふさわしい五合目周辺の質の高い利用として、以下の 3 点を基本的な方針とする。

- 国立公園の特別保護地区である素晴らしい自然景観を体験し、自然の価値を理解する。
- 世界文化遺産としての富士山の価値を理解し、自然と信仰が一体となった我が国の文化を体感する。
- 活火山としての富士山の特性を理解し、富士山の安全な利用を図る。

4. 策定の手順

基本構想においては、五合目周辺にあり富士信仰と深く結びついた「御中道」及び「小富士散策路」（以下、御中道等とする）の現状（利用状況、自然・文化資源、危険箇所、既存施設等）を、既存資料調査、現地調査、有識者及び観光関係者へのヒアリング等により把握し、望ましい利用のあり方を整理するとともに、整備する効果の特に高い区間・事業内容をまとめる*。

*基本構想により整備する効果の特に高い区間・事業については、別途「基本計画」を策定し、環境省として整備する予定の内容を明らかにする。

(参考) 御中道の歴史

富士山の中腹を一周廻ることを中道巡り（御中道巡拝）といい、富士講の三大修行のひとつとして行われるものであった。戦国時代には既に行われていたとされる。大沢崩れ越えなど危険を伴うものであったため、山頂への登頂を3回以上行ったものでないと御師による許可が受けられず、道中の事故に対しては自己責任とする願状を提出する必要がある等、富士信仰における難行として位置づけられていた。

5. 調査結果及び概要

(1) 現状把握

文献調査、現地調査、有識者及び観光関係者へのヒアリングにより、安全性、利用特性、自然資源等の現状を把握し、御中道を以下の4つの区間に分類した。（詳細は図1及び表1を参照）

A「散策路区間（※1）」：観光客がハイキングにより安全に富士山の自然及び歴史文化に親しむなどふれあいを楽しむことができる区間。

→観光客向けに誘導標識、解説標識等の整備を進める必要がある区間。

B「一般登山道区間（※2）」：観光客の利用には適さないが、一般の登山者の通行には問題ない区間。

→一般登山者向けに誘導標識、解説標識等の整備を進める必要がある区間。

C「上級登山道区間（※3）」：ルートファインディングができる登山者や、精通したガイドが同行する登山者が、自己責任での通行を想定する区間。

→必要最小限の注意標識を整備するとともに、自己責任による利用を想定した利用のルールを策定を進める必要がある区間。

D「危険区間」：危険度が高く、一般的な利用を想定しない区間。

→整備は行わず、危険性について情報提供を行う等により、利用が行われないよう誘導する必要がある区間。

※1：自然公園等施設整備指針の「探勝歩道」に相当

※2：自然公園等施設整備指針の「登山道（山稜・高山帯ルート及び山麓・樹林帯ルート）に相当」

※3：自然公園等施設整備指針の「登山道（バリエーションルート）に相当」

(2) 整備の方向性の検討

観光客に対して、富士山の優れた自然・文化に親しむ体験を提供するためには、上記(1)により、A「散策路区間」とされた区間(4区間)において、自然・文化・火山についての情報提供を行うことが重要と考えられる。

そのため、これらの4区間について、想定される利用者数、現状の整備水準、土地所有者・管理者の意向等から、整備効果の高い区間を抽出し、「スバルライン五合目～御庭」を環境省が整備を進める必要性が高い区間として選定した。

選定理由：

- ・ 歩道における危険性が低い。
- ・ 年間400万人が訪れるスバルライン五合目を起点としており、整備により多くの利用者の利用が期待される。
- ・ 環境省が既存施設の事業執行者(山梨県)やその他の関係者(道路公社、国土交通省、民間事業者)と連携した整備を進めることで、富士山五合目周辺の観光客に向けた世界遺産である国立公園での質の高い利用を提供できる。

なお、その他の3区間(「富士宮五合目～宝永山周辺」、「スバルライン五合目～吉田口六合目」、「小富士散策路」)については、潜在的な利用者数を鑑みるとスバルライン5合目と比べて整備優先度は低いが、安全性や利用特性等から、標識等を整備することにより、観光客への質の高い利用の提供に資することが期待される。そのため既存施設の事業執行者が、引き続き整備・管理することも含めて、整備等のあり方について関係者間において、引き続き検討・調整を行うものとする。

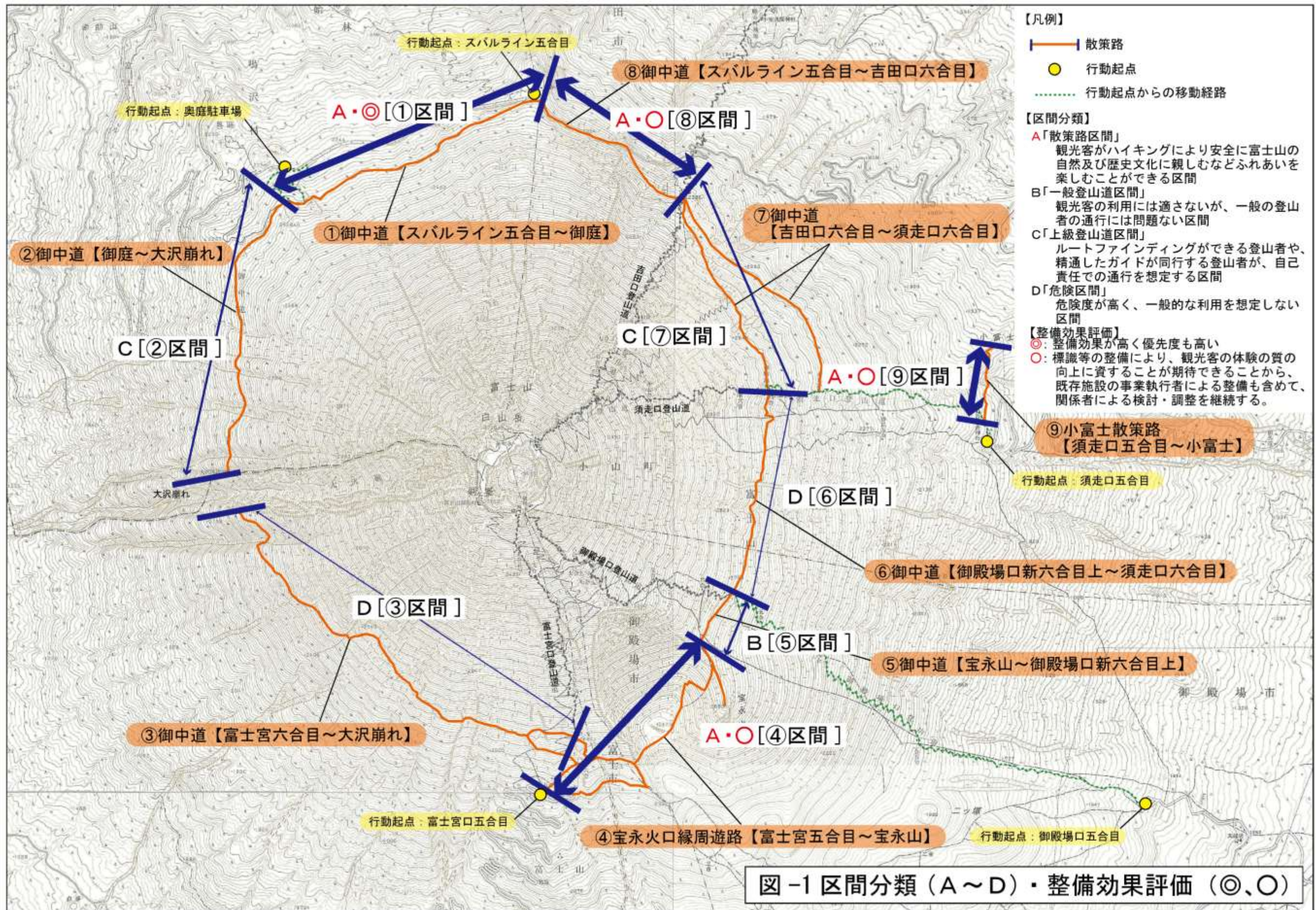


図-1 区間分類 (A～D)・整備効果評価 (◎、○)

<表1>

No.	散策路整備の候補ルート 【場所／土地所有者／事業執行者】	行動起点からのアクセス性	利用者への安全性（利用シーズン）	利用者現況特性	分類 分類理由	魅力資源の分布特性	整備効果評価 （Aのみ） 評価理由
	施設の現況特性	◎：車道終点から直結 ○：車道終点から徒歩30分以内 △：車道終点から徒歩30分～1時間程度 ×：車道終点から徒歩1時間以上	◎：危険性が非常に低い ○：道幅広く危険性低い △：道幅が一部狭く危険性が比較的高い ×：危険性高い	◎：非常に多数（5000人以上）の利用者 ○：多数だが登山道共用 △：比較的少数（2500人以下）の利用者 ×：利用者少ない	A:散策路区間 B:一般登山道区間 C:上級登山道区間 D:危険区間	潜在的利用者数	◎：整備効果が高く優先度も高い ○：整備効果が比較的低い
①	御中道（スバルライン五合目～御庭） 【山梨県鳴沢村／山梨県／山梨県（観光資源課）】	● 行動起点（スバルライン五合目、奥庭駐車場）からのアクセス性が高い（駐車場から直結）。	● 全般的に道幅が広く滑落の危険性は低い。 ● 沢（流し）沿いに一部落石の危険箇所がある。 ● スバルライン五合目から200m程度は樹林帯で倒木の危険性はあるが、落石の危険性が低い。	● 個人・団体等の多様な年齢層・形態により利用。 ● 山梨県の自然解説員ガイド利用者のみで年間2,500人前後となっている。 ● 学校などの団体が多い。 ● 外国人の利用も見られる。	A 歩道は良く整備・管理されており、安全性も高い。スバルライン五合目を起点としており、アクセス性も高い。 よって、一般観光客が利用可能な散策路区間とする。	<風景> ● 富士山山頂、富士五湖や外輪山 <植物・植生> ● 亜高山針葉樹林帯、スコリア荒原 ● シャクナゲ、コケモモ群生地 ● 旗型樹形 <地形・地質> ● 側火山や火口列、溶岩の露出 ● 青草流し、白草流し等の沢・流し <歴史・文化> ● 御中道、小御嶽神社 ◎	◎ 起点であるスバルライン五合目の年間来訪者が400万人いることから潜在的な利用者が多いと推定される。 標識等の整備により、これら多数の観光客の体験の質の向上が期待できる。 以上を踏まえると整備効果が高く優先度も高い。
	● 標識類や柵等が整備され、山梨県が維持管理を実施 ● 標識類が一部老朽化している						
②	御中道（御庭～大沢崩れ） 【山梨県鳴沢村／山梨県／なし】	● 行動起点（奥庭駐車場）からのアクセス性が比較的高い（駐車場から徒歩30分で御中道に合流）。	● 滑沢～大沢崩れ区間は落石・倒木、滑落の危険箇所がある。 ● 御庭～滑沢区間（樹林地帯）は道幅が広く比較的安全性が高い。 ● 旧御庭山荘付近は入口が分りにくく道迷いの可能性がある。	● 個人・団体等の多様な年齢層・形態により利用。 ● 年間1,700名程度が通行している。	C アクセス性は比較的高いが、危険箇所も多く、一般利用者の通行を想定した管理が行われていない。 よって、自己責任を前提とした利用を想定する上級登山道区間とする。	<風景> ● 富士山山頂、富士五湖や南アルプス <植物・植生> ● 亜高山針葉樹林帯、スコリア荒原 ● シャクナゲ、コケモモ群生地 ● 風衝樹形 <地形・地質> ● 大沢崩れ、滑沢等の沢・流し ● 火口列、溶岩流や溶岩の露出 <歴史・文化> ● 御中道、三柱神社 ◎	◎ ◎
	● 工事作業道として国土交通省が維持管理を実施しているが、一般利用者が通行する歩道としては管理されていない						
③	御中道（富士宮六合目～大沢崩れ） 【静岡県富士宮市／静岡森林管理署／なし】	● 行動起点（富士宮五合目）から登山道を経由する必要があるがアクセス性が低い（駐車場から徒歩40分）。	● 落石・倒木、滑落の危険箇所が多い。 ● 狭い踏み跡のルートで道迷いの危険性が高い。	● かつての富士講の巡礼路であり基本的には未利用（詳細な利用状況は不明）。	D ルートも不明瞭で、安全性が低い。	<風景> ● 富士山山頂、越前岳、駿河湾 <植物・植生> ● 亜高山性針広混交林帯、スコリア荒原 <地形・地質> ● 主杖流し、不動沢、大沢崩れ等の沢・流し ● 溶岩流や溶岩の露出 <歴史・文化> ● 御中道 ○	◎ ○
	△						

<表1>

No.	散策路整備の候補ルート 【場所／土地所有者／事業執行者】	行動起点からのアクセス性	利用者への安全性（利用シーズン）	利用者現況特性	分類 分類理由	魅力資源の分布特性	整備効果評価 （Aのみ） 評価理由
	施設の現況特性	◎：車道終点から直結 ○：車道終点から徒歩30分以内 △：車道終点から徒歩30分～1時間程度 ×：車道終点から徒歩1時間以上	◎：危険性が非常に低い ○：道幅広く危険性低い △：道幅が一部狭く危険性が比較的高い ×：危険性高い	◎：非常に多数（5000人以上）の利用者 ○：多数だが登山道共用 △：比較的少数（2500人以下）の利用者 ×：利用者少ない	A:散策路区間 B:一般登山道区間 C:上級登山道区間 D:危険区間	潜在的利用者数	◎：整備効果が高く優先度も高い ○：整備効果が比較的低い
④	宝永火口縁周遊路（富士宮五合目～宝永山） 【静岡県富士宮市、富士市、御殿場市／静岡森林管理署／静岡県】	● 行動起点（富士宮五合目）からのアクセス性が高い（駐車場から直結）。	● 道幅が広く滑落の危険性は低い。 ● 宝永火口縁沿いに一部落石の危険箇所がある。	● 個人・団体等の多様な年齢層・形態により利用。 ● 夏山シーズンの富士宮口登山者は、年間3万2千人ほどいるが、宝永山付近まで観光目的の利用者がどの程度いるか不明。 ● 紅葉シーズン（11月）までツアーがある等多数の利用がある。	A 安全性も高く、また、アクセス性も高い。 よって、一般観光客が利用可能な散策路区間とする。	<風景> ● 富士山山頂、宝永山 <植物・植生> ● 風衝樹形、スコリア荒原、亜高山性針広混交林帯 <地形・地質> ● 宝永火口、十二薬師 <歴史・文化> ● 御中道、牡丹畑 ◎	○ 静岡県により宝永山遊歩道として整備・管理がなされている。 起点である富士宮五合目の来訪者が20～40万人いるが、スバルライン五合目と比して、観光客の潜在的な利用者は多くないと推定され、整備効果は比較的低い。 ただし、標識等の整備により、観光客の体験の質の向上に資することは期待できることから、既存施設の事業執行者による整備も含めて、関係者による検討・調整を継続する。
	● 主に誘導標識が設置されている。	◎	○	◎		◎	
⑤	御中道（宝永山～御殿場口新六合目上） 【静岡県御殿場市、小山町／静岡森林管理署／なし】	● 行動起点（須走口五合目、御殿場口五合目）から登山道を經由する必要があるアクセス性が非常に低い（富士宮五合目駐車場から1時間45分で宝永山に合流）。	● 道幅が狭い。 ● 道迷いの危険性が高い	● 御殿場口登山道と富士宮口登山道をつなぐルートとして一定程度の登山者の利用がある。	B 行動起点からのアクセス性が低く、歩道も観光客の利用には適していない。 よって、登山者の利用を想定した一般登山道区間とする。	<風景> ● 富士山山頂、宝永山、外輪山 <植物・植生> ● スコリア荒原 <歴史・文化> ● 御中道 ○	/
	● 登山道（プリンスルート）として利用されているが、標識等は整備されておらず、管理もされていない。	×	△	○		○	
⑥	御中道（御殿場口新六合目上～須走口六合目） 【静岡県御殿場市、小山町／静岡森林管理署／なし】	● 行動起点（須走口五合目、御殿場口五合目）から登山道を經由する必要があるアクセス性が非常に低い（須走口五合目駐車場から1時間35分で御中道に合流、御殿場口新五合目から3時間45分で御中道に合流）。	● 落石・倒木、滑落の危険箇所が多い。 ● 狭い踏み跡のルートで道迷いの危険性が高い。	● かつての富士講の巡礼路であり基本的には未利用（詳細な利用状況は不明）。 ● ガイドツアーでは、年間300名程度（ガイド団体：やまぼうし）が利用。	D 安全性が低い。	<風景> ● 富士山山頂、宝永山、外輪山 <植物・植生> ● スコリア荒原 <地形・地質> ● 第1の沢等の沢・流し <歴史・文化> ● 御中道 ○	/
		×	×	×		○	

<表1>

No.	散策路整備の候補ルート 【場所／土地所有者／事業執行者】	行動起点からのアクセス性	利用者への安全性（利用シーズン）	利用者現況特性	分類 分類理由	魅力資源の分布特性	整備効果評価 （Aのみ） 評価理由
	施設の現況特性	◎：車道終点から直結 ○：車道終点から徒歩30分以内 △：車道終点から徒歩30分～1時間程度 ×：車道終点から徒歩1時間以上	◎：危険性が非常に低い ○：道幅広く危険性低い △：道幅が一部狭く危険性が比較的高い ×：危険性高い	◎：非常に多数（5000人以上）の利用者 ○：多数だが登山道共用 △：比較的少数（2500人以下）の利用者 ×：利用者少ない	A:散策路区間 B:一般登山道区間 C:上級登山道区間 D:危険区間	潜在的利用者数	◎：整備効果が高く優先度も高い ○：整備効果が比較的低い
⑦	御中道（吉田口六合目～須走口六合目） 【山梨県富士吉田市、静岡県小山町／山梨県、静岡森林管理署／なし】	行動起点（スバルライン五合目、須走口五合目）から登山道を経由する必要がありアクセス性が非常に低い（スバルライン五合目から1時間5分で御中道に合流）。	<ul style="list-style-type: none"> ● 落石・倒木、滑落の危険箇所が多い。 ● 狭い踏み跡のルートで道迷いの危険性が高い。 	<ul style="list-style-type: none"> ● ガイドツアーでは、年間900名程度（ガイド団体：やまぼうし）が利用（シヤクナゲ開花時期）。 	C アクセス性も低く、危険箇所も多く、一般利用者の通行を想定した管理が行われていない。 よって、自己責任を前提とした利用を想定する上級登山道区間とする。	<風景> <ul style="list-style-type: none"> ● 富士山山頂、富士五湖 <植物・植生> <ul style="list-style-type: none"> ● 亜高山性針広混交林帯、スコリア荒原 ● シヤクナゲ群生地 ● 風衝樹形 <地形・地質> <ul style="list-style-type: none"> ● ツバクロ沢、滝沢等の沢・流し ● 溶岩流や溶岩の露出、スコリア層の露頭 <歴史・文化> <ul style="list-style-type: none"> ● 御中道、穴小屋 	
	<ul style="list-style-type: none"> ● 人の通行を前提とした施設は全く整備されておらず、管理もされていない。 	×	×	△		◎	
⑧	御中道（スバルライン五合目～吉田口六合目） 【山梨県富士吉田市／山梨県／山梨県（県土整備部）】	行動起点（スバルライン五合目）からのアクセス性が高い（駐車場より直結）。	<ul style="list-style-type: none"> ● 沢（流し）沿いに落石・倒木の危険箇所がある道幅が広く滑落の危険性は低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ● スバルライン五合目から吉田口六合目を経由した山頂登山ルートであり、年間20万人程度が利用。 ● 観光客も吉田口六合目まで多数行っている。 	A 安全性も高く、また、アクセス性も高い。 よって、一般観光客が利用可能な散策路区間とする。	<風景> <ul style="list-style-type: none"> ● 富士山山頂、富士五湖 <植物・植生> <ul style="list-style-type: none"> ● 亜高山性針広混交林帯、スコリア荒原 <地形・地質> <ul style="list-style-type: none"> ● 吉田大沢 ● 溶岩の露出 <歴史・文化> <ul style="list-style-type: none"> ● 御中道、泉ヶ瀧、小御嶽神社、穴小屋 	○ 山梨県県土整備部により、吉田口登山道へのアクセスルートとして、適切に整備・管理されており、今後も県による整備・管理が期待できる。 起点であるスバルライン五合目の年間来訪者が400万人いることから潜在的な利用者が多いと想定されるが、既に多数の登山者による利用に加え、車両の通行もなされていることから、観光客を対象とした体験の場としては効果が高くない。 ただし、標識等の整備により、観光客の体験の質の向上に資することは期待できることから、既存施設の事業執行者による整備も含めて、関係者による検討・調整を継続する。
	<ul style="list-style-type: none"> ● 標識類や柵等が整備され、県道705号富士精進線（スバルライン五合目～泉ヶ滝）、県道701号富士上吉田線（泉ヶ滝～吉田口六合目）として適正に管理されている。 	◎	○	◎		◎	

<表 1>

No.	散策路整備の候補ルート 【場所／土地所有者／事業執行者】	行動起点からのアクセス性	利用者への安全性（利用シーズン）	利用者現況特性	分類 分類理由	魅力資源の分布特性	整備効果評価 （Aのみ） 評価理由
	施設の現況特性	◎：車道終点から直結 ○：車道終点から徒歩 30 分以内 △：車道終点から徒歩 30 分～1 時間程度 ×：車道終点から徒歩 1 時間以上	◎：危険性が非常に低い ○：道幅広く危険性低い △：道幅が一部狭く危険性が比較的高い ×：危険性高い	◎：非常に多数（5000 人以上）の利用者 ○：多数だが登山道共用 △：比較的少数（2500 人以下）の利用者 ×：利用者少ない	A: 散策路区間 B: 一般登山道区間 C: 上級登山道区間 D: 危険区間	潜在的利用者数	◎：整備効果が高く優先度も高い ○：整備効果が比較的低い
⑨	小富士散策路（須走口五合目～小富士） 【静岡県 小山町／静岡森林管理署、山梨県／静岡県、小山町※】 ※維持管理は富士山自然休養林保護管理協議会が実施	● 行動起点（須走口五合目）からのアクセス性が高い（駐車場より直結）。	● 主に樹林帯の比較的広い道幅で、落石や滑落の危険性は低いが、倒木の危険性がややある。	● 個人・団体等の多様な年齢層・形態により利用。 ● ガイドツアーでは、年間 8,000 名程度（ガイド団体：やまぼうし）が利用。	A 安全性も高く、また、アクセス性も高い。 よって、一般観光客が利用可能な散策路区間とする。	<風景> ● 富士山山頂、富士五湖、小富士山頂 <植物・植生> ● 亜高山性針葉樹林帯	○ 既に小富士散策路として、静岡県・小山町が事業執行され、富士山自然休養林保護管理協議会により標識等整備が行われている。 起点である須走口五合目の来訪者が 7～12 万人いるが、スパルライン五合目と比して、観光客の潜在的な利用者は多くないと推定され、整備効果は比較的低い。 ただし、標識等の整備により、観光客の体験の質の向上に資することは期待できることから、既存施設の事業執行者による整備も含めて、関係者による検討・調整を継続する。
	● 誘導標識が設置されており歩道として管理されているが、自然や文化について解説する標識はない。					◎	